

科目名称	在宅看護学実習（訪問看護ステーション）
授業コード	BK374
英語名称	
学期	2024年度後期
単位	2.0
担当教員	田中 博子, 福井 郁子
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	訪問看護ステーションにおける看護活動への参加を通して、在宅で疾病や障害をもちながら生活する人々と家族を総合的に理解し、多職種と連携・協働してその人々を支援する訪問看護師の役割を学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	実習指導においては、看護師としての臨床経験および訪問看護師としての経験のある教員が担当する。
到達目標	<p>この科目は、専門分野の「看護の実践」の1つである。カリキュラム・ポリシーに掲げる「多様な健康レベルや生活状況を考慮し、人間関係を形成しながら看護実践を学ぶ」に対応する科目である。ディプロマ・ポリシーに掲げる「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得している」「高度化・複雑化する医療に対応し、看護実践する専門知識・技術を有している」「地域で暮らす人々の多様な文化、生活背景、価値観を尊重し、個人・家族・地域の健康レベルに応じた地域包括ケアを実践する基礎的能力を有している」「対象者に最善の支援ができるように、保健医療福祉システムの中で、人々と協働する能力を有している」「対象者の権利や人権を尊重し、看護専門職として倫理的な行動がとれる」をめざし、以下に実習目的と実習目標をあげる。</p> <p>【実習目的】 訪問看護ステーションにおける看護活動への参加を通して、在宅で疾病や障がいをもちながら生活する療養者と家族を理解し、多職種と連携・協働してその人々を支援する訪問看護師の役割を学ぶ。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.在宅で疾病や障がいをもちながら生活する療養者と家族を理解する。 2.療養者はどのような生活環境で療養しているのかを理解する。 3.療養者と家族がどのように生活したいかを把握し、その実現をめざした訪問看護の実際を理解する。 4.訪問看護ステーションにおける多職種との連携・協働の必要性と訪問看護師の役割を考察する。
計画・内容	<p>臨地実習 在宅看護学実習 要項P2参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習時間 原則として9:00～17:00（実習施設の状況に応じる） 2) 実習日程 2024年9月23日（月）から2025年2月7日（金）の期間で8日間 <p>1週目 月曜日：午前 学内でオリエンテーション 午後 訪問看護ステーション現地オリエンテーションおよび臨地実習</p> <p>火～木曜日：訪問看護ステーション実習（同行訪問） 金曜日：学内実習 9：00～16時まで 同行訪問で学んだことを整理する</p> <p>2週目</p>

計画・内容	<p>月～水曜日：訪問看護ステーション実習（同行訪問） 木曜日：訪問看護ステーション実習（同行訪問）および最終カンファレンス 金曜日：学内実習 9：00～学びのまとめ、報告会</p> <p>17：00 記録提出締切</p> <p>【報告会のねらい】 在宅看護学実習で経験したことを振り返り、メンバーと対話することを通して、在宅で疾病や障がいを持ちながら生活する療養者と家族への訪問看護師の役割について理解を深めていく。</p>
授業の進め方	<p>臨地実習 在宅看護学実習要項P2に示す。</p> <p>1.オリエンテーション 1) 事前オリエンテーション 自己紹介シートおよび事前学習課題の確認 実習を効果的、円滑に行うため、実習目的、実習内容については在宅看護学実習を精読しオリエンテーションに臨む。</p> <p>2) 学内オリエンテーション 実習初日に学内で全体オリエンテーションを受け、その後、施設別オリエンテーションを受ける。</p> <p>3) 実習施設内オリエンテーション 実習初日の午後、指示された時刻までに実習施設に到着し、オリエンテーションを受ける。</p> <p>2. 同行訪問 1) 同行訪問する療養者に関しては、記録および実習指導者からの説明によって情報を得る。 2) 自己の目標が到達できるよう行動する。 3) 在宅ケアチームの一員として訪問看護はどのような役割を果たしているのかを学ぶ。</p> <p>3. 教員の支援 教員は学生が訪問看護ステーションにいる時間（朝・昼食時・夕方のいずれか）に伺うため、その際に学びの状況を報告し、学びを深めていく。</p>
能動的な学びの実施	<p>同行訪問後は訪問看護師に対して学びを報告し、必要に応じて質問したり意見交換を行うため、積極的で主体的な態度が期待される。</p>
授業時間外の学修	<p>1) 事前学習課題は提示された内容を調べ、期日に提出する。 2) 実習中は同行訪問を通じて学んだことを記録に整理する。 3) 同行訪問した療養者の疾病および、利用している社会資源について調べ理解を深める。 4) 実習の振り返り、調べ学習として1日60分から90分は時間をとり翌日の実習に備える。</p>
教科書・参考書	<p>講義で使用したテキスト、配布した資料を活用して学んだことを整理する。</p>
成績評価方法と基準	<p>・評価は、在宅看護学実習 の評価表で行なう。</p> <p>【配点】 療養者と家族の理解（18点）、生活環境の理解（18点）、訪問看護の理解（34点）、多職種連携の理解と訪問看護師の役割についての考察（20点）、学習者としての行動（10点）の配点で評価する。</p> <p>・評価の対象となる記録は以下に示す。 訪問看護ステーションの概要 同行訪問看護記録用紙（毎日の記録） 療養者が望む生活およびケア計画 訪問看護以外での学びの記録 学びのレポート</p>
課題等に対するフィードバック	<p>担当教員は学生とともに療養者宅に訪問しないため、学生は実習の目的と目標をよく理解して実習に臨む。同行した訪問看護師から質問されたことで答えきれなかったこと、自身が不足していると思えた知識</p>

課題等に対するフィードバック	などについては自己学習を行い深めていく。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	<p>・在宅看護学実習 は、訪問看護ステーションの利用者（ステーションの顧客）の好意で、自宅に学生を迎え入れて頂くことで成り立っている。それは第一に利用者様の好意によるものであるが、その好意は、訪問看護ステーションへの信頼、訪問看護師に対する信頼があってこそのものである。したがって、学生は訪問にあたって、訪問看護師が日々の実践を通して積み上げてきた信頼を損なうことがないように、誠意をもって実習に臨んでほしい。</p> <p>・訪問看護を通して在宅療養の場には、その家の暮らし方、生き方、家族関係、環境など固有の生活空間があることに気づいてほしい。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方 同行訪問を通して学んだことをふまえ、在宅で生活を送る療養者および家族介護者に対して果たす訪問看護師の役割を考察する。</p> <p>成績評価方法と基準 評価は、在宅看護学実習 の評価表で行なう。</p> <p>【配点】 療養者と家族の理解（18点）、生活環境の理解（18点）、訪問看護の理解（34点）、多職種連携の理解と訪問看護師の役割についての考察（20点）、学習者としての行動（10点）の配点で評価する。</p>